

新型コロナウイルス感染症の拡大による 水道事業経営への影響について ⑥

9月検針分（主に7・8月使用分）

用途別の影響

令和 2 年 8 月の検針データを前年と比較すると、下表にまとめたとおりとなります。

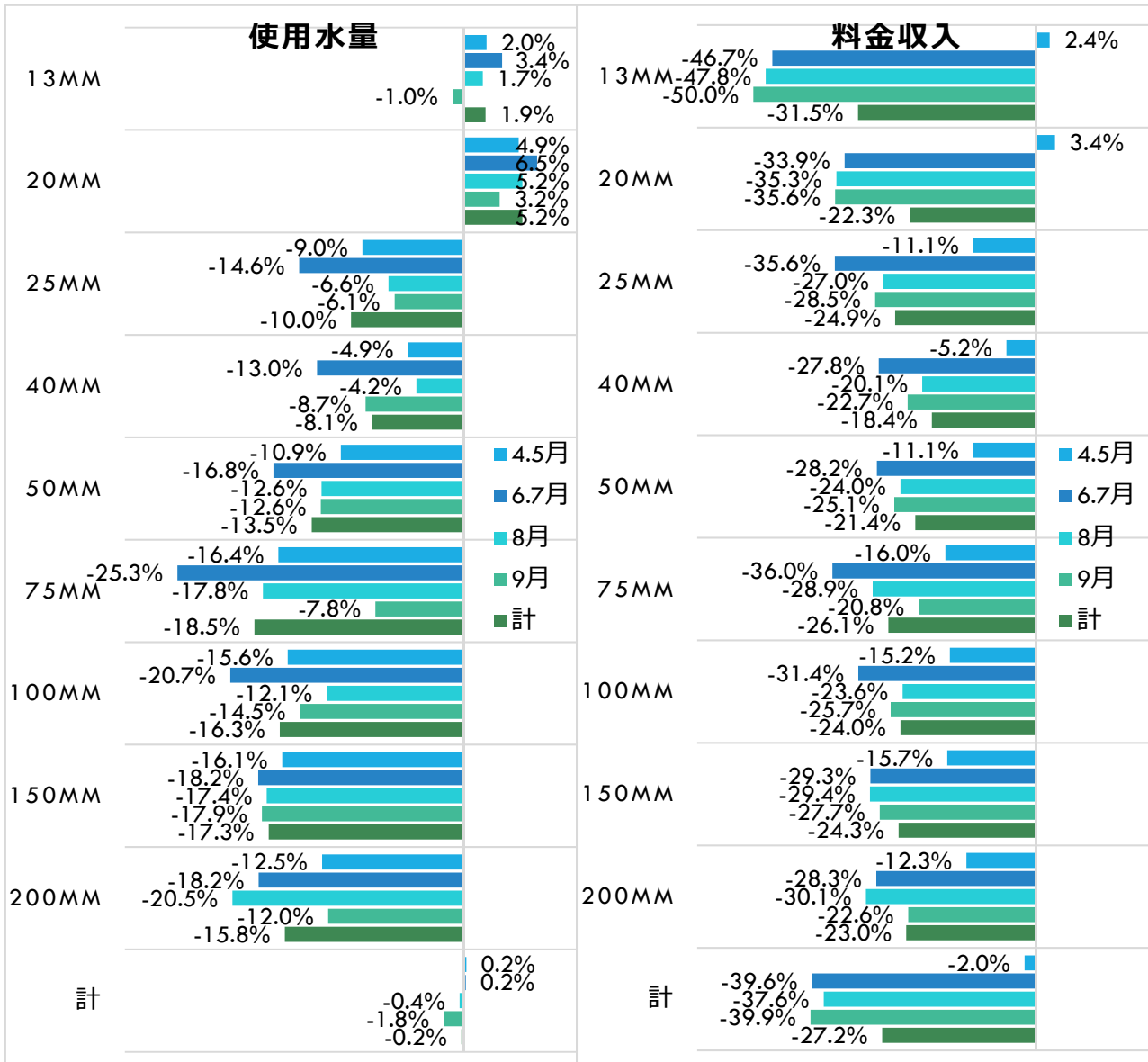
4 月以来、主に家事用に用いられる口径 13mm と 20mm のメーターでは水量は増え続けていましたが、長梅雨の影響から、初めて減少に転じました。また、主に業務用となる口径 25mm 以上のメーターでは、引き続き減少しています。

料金は、6 月検針分から基本料金の全額と従量料金の 10%の減額が始まっていることから大きく減少しています。同じ対象者の 7 月検針分と比較すると、使用水量は 21,000 m³増から 26,000 m³の減となり、料金の減少額は、500 万円上回る 7,000 万円となりました。配水量から見ると、長梅雨の影響から 7 月の落ち込みが今年最大となっていました。その影響が顕著に現れています。

検針年	区分	20mm 以下	25mm 以上	合計
R1 (2019)	水量 (m ³)	1,221,698	235,226	1,456,924
	金額 (税抜き : 円)	121,408,250	53,246,900	174,655,150
	供給単価 (円/m ³)	99.38	226.36	119.88
R2 (2020)	水量 (m ³)	1,220,312	210,754	1,431,066
	金額 (税抜き : 円)	64,475,249	40,468,919	104,944,168
	供給単価 (円/m ³)	52.84	192.02	73.33
増減	水量 (m ³)	△ 1,386	△ 24,472	△ 25,858
	増減率	△0.11%	△10.40%	△1.77%
	金額 (税抜き : 円)	△ 56,933,001	△ 12,777,981	△ 69,710,982
	増減率	△46.89%	△24.00%	△39.91%
	供給単価 (円/m ³)	△ 46.54	△ 34.35	△ 46.55
	増減率	△46.83%	△15.17%	△38.83%

口径別の変動率

口径別の変化を見ると、下のグラフに表すとおり 20mm 以外のすべての口径で使用水量が減少しています。また、減額措置の影響により、料金収入はすべての口径で減少しています。9月の合計では、使用水量は1.8%、料金収入は39.9%減少しました。



結論

使用水量合計の変動率は、令和元年度の変動率の範囲（月△4.2%～2.5%）内となりました。同じ検針対象となる7月と比較すると 20mm以下では、5.6 万m³増から 0.1 万m³減となり、25mm以上では、3.5 万m³減から 2.4 万m³減と縮小しています。経済活動も活発になりつつあり、水需要が家庭から事業用へと移り始めていることが伺えますが、8月は猛暑でもあったため、10月検針の結果を注視する必要があります。